

I K O R U F U C H U

おもい、いこる、ふちゅう



～府中市市勢要覧【資料編】～

人口・世帯数



35,849人

日本人住民: 35,155人
外国人住民: 694人

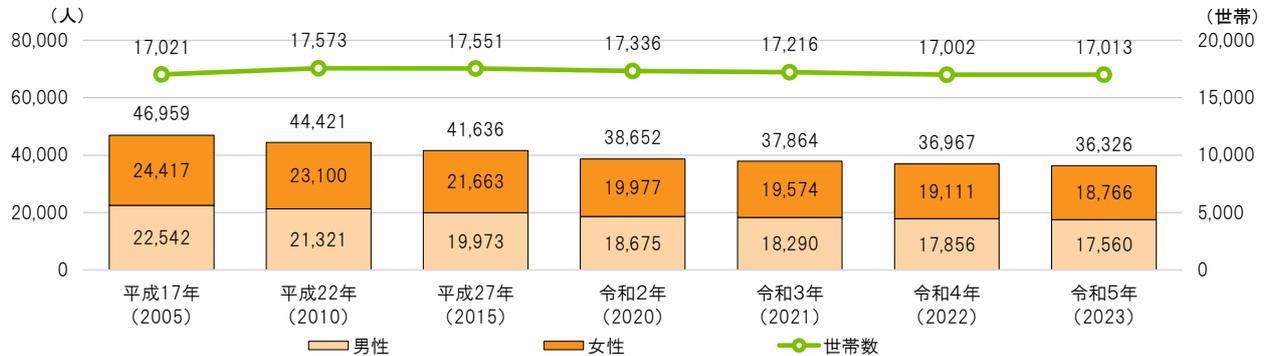


16,955世帯

日本人住民: 16,401世帯
外国人住民: 554世帯

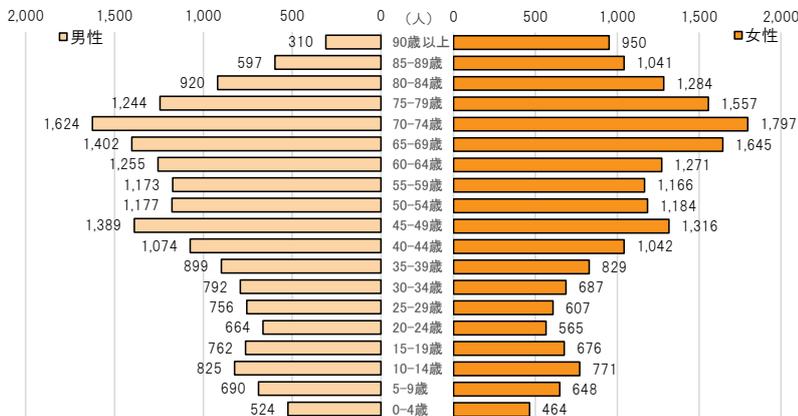
資料: 市民課 令和6年1月1日現在

▼人口及び世帯数の推移



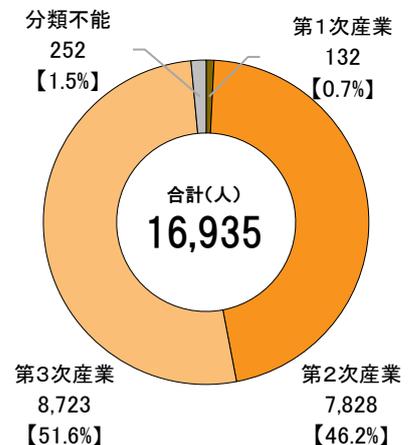
資料: 市民課

▼人口ピラミッド



資料: 令和2年 国勢調査

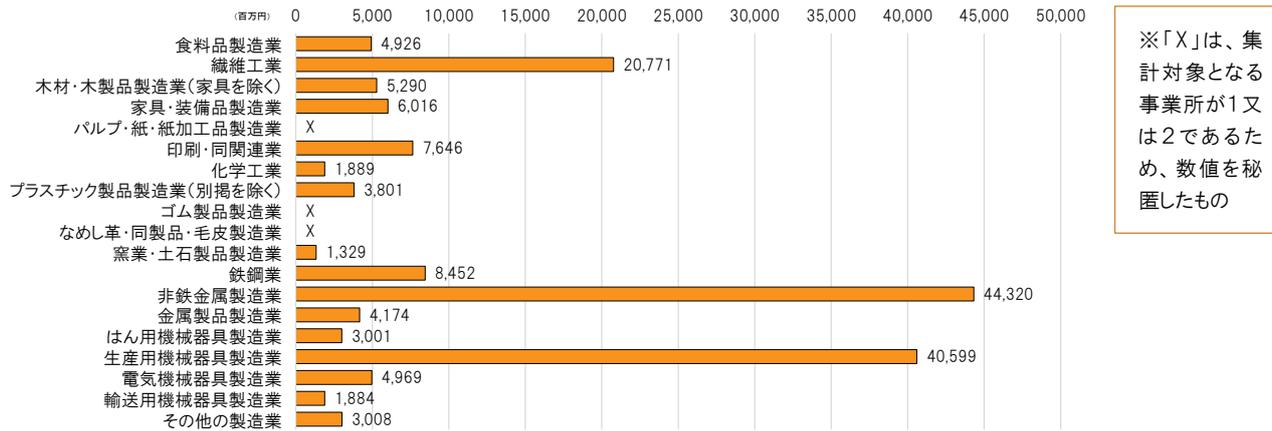
▼産業別人口グラフ



資料: 令和2年 国勢調査

産業

▼工業【製造品出荷額】



資料: 令和3年経済センサス-活動調査 製造業(地域別統計表データ)

▼商業

| | | 平成 27(2015)年 | 令和3(2021)年 |
|-----|--------------|--------------|------------|
| 卸売業 | 事業所数(事業所) | 78 | 69 |
| | 従業者数(人) | 481 | 489 |
| | 年間商品販売額(百万円) | 16,380 | 14,903 |
| 小売業 | 事業所数(事業所) | 436 | 385 |
| | 従業者数(人) | 2,277 | 2,191 |
| | 年間商品販売額(百万円) | 40,728 | 36,649 |
| 合計 | 事業所数(事業所) | 514 | 454 |
| | 従業者数(人) | 2,758 | 2,680 |
| | 年間商品販売額(百万円) | 57,108 | 51,552 |

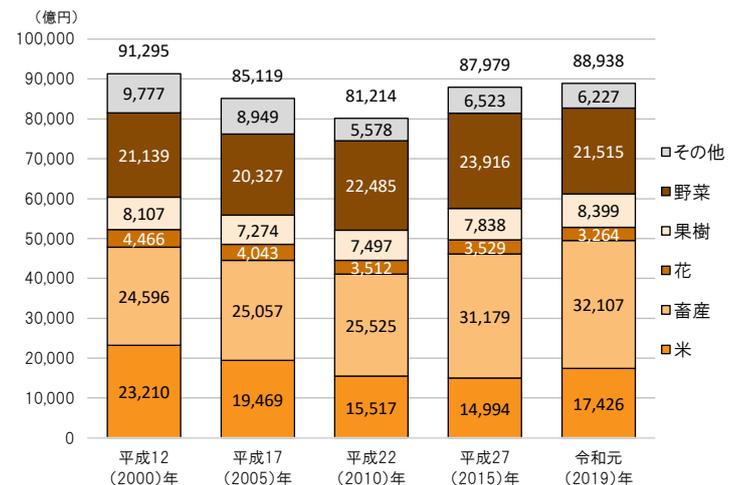
資料: 経済センサス

▼農業

| | 平成 22(2010)年 | 平成 27(2015)年 | 令和 2(2020)年 |
|------------|--------------|--------------|-------------|
| 農家数総数(戸) | 1,661 | 1,469 | 1,255 |
| 販売農家数(戸) | 604 | 504 | 400 |
| 自給的農家数(戸) | 1,057 | 965 | 855 |
| 経営耕地面積(ha) | 52,980 | 51,096 | 45,680 |

資料: 農林業センサス

▼部門別農業産出額の推移



資料: 農業生産所得統計(個人経営は暦年、法人経営は年度)

▼観光客の推移

| | 平成 29(2017)年 | 平成 30(2018)年 | 令和元(2019)年 | 令和2(2020)年 | 令和3(2021)年 | 令和4(2022)年 |
|------------|--------------|--------------|------------|------------|------------|------------|
| 総観光客数(千人) | 1,328 | 1,114 | 1,217 | 867 | 831 | 797 |
| 宿泊客数(人泊) | (データなし) | (データなし) | 23,633 | 13,457 | 12,736 | 9,341 |
| 観光消費額(百万円) | 2,307 | 1,998 | 1,968 | 851 | 846 | 999 |

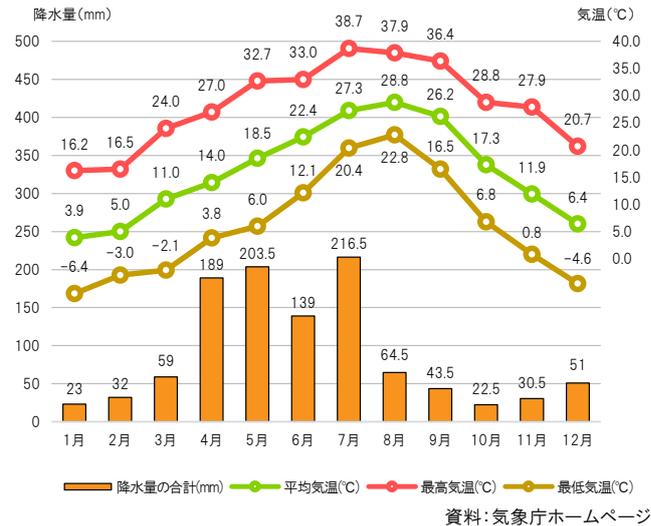
資料: 広島県観光客数の動向

沿革・地勢

府中市が誕生したのは昭和 29 年。芦品郡府中町、岩谷村など周辺6町村が合併し、市制を施行しました。その後、芦品郡河佐村、御調郡諸田村および御調町の三郎丸の一部を編入合併、昭和 50 年に芦品郡協和村、平成 16 年に甲奴郡上下町を編入合併し、現在の市域となりました。

府中市は広島県東南部内陸地帯に位置し、東西 17.13km、南北 25.54km と、南北に細長い市です。三方を山に囲まれ、瀬戸内海に注ぐ県内3大河川のひとつ芦田川が縦貫、上下地区には日本海に注ぐ江の川水系の上下川があり、分水嶺の地でもあります。

▼月別平均・最高・最低気温と降雨量(令和5年)



| 年月日 | |
|---------------------------|--|
| 明治 22 年4月1日 (1889)年 | 町村制が実施され、関係市町村は府中市村・出口村・岩谷村・広谷村・国府村・栗生村・下川辺村・河佐村・諸田村・上川辺村となる。また、木野山村・行藤村・桑木村・阿字村の4か村で組合村を設立した。 |
| 明治 29 年6月3日 (1896)年 | 府中市村を府中町と改めた。 |
| 明治 30 年6月5日 (1897)年 | 出口村を出口町と改めた。 |
| 明治 31 年4月1日 (1898)年 | 芦田郡・品治二郡を合併し、芦品郡を設立した。 |
| 明治 45 年7月 25 日 (1912)年 | 阿字村、組合村から分離独立する。 |
| 大正2年2月1日 (1913)年 | 木野山村・行藤村・桑木村を合併し、大正村と称する。 |
| 大正 12 年4月1日 (1923)年 | 府中町と栗生村土生の一部が合併。土生の一部は栗生村。 |
| 大正 14 年2月1日 (1925)年 | 府中町・出口町を合併して府中町と称する。 |
| 昭和 24 年4月1日 (1949)年 | 御調郡から下川辺村が分離、芦品郡へ編入する。 |
| 昭和 24 年7月1日 (1949)年 | 大正村桑木が分離、神石郡高蓋村へ編入する。 |
| 昭和 29 年3月 31 日 (1954)年 | 府中町・広谷村・国府村・栗生村・岩谷村・下川辺村の6か町村が合併、府中市制を施行した。 |
| 昭和 30 年2月1日 (1955)年 | 御調郡諸田村から、下山田・大山田・千堂地区が分離、御調町へ編入した。 |
| 昭和 30 年3月 17 日 (1955)年 | 甲奴郡上下町斗升が分離、一部が大正村へ、一部が阿字村へ編入した。 |
| 昭和 30 年3月 31 日 (1955)年 | 大正村・阿字村を合併、協和村と称する。 |
| 昭和 31 年9月 30 日 (1956)年 | 河佐村・御調郡諸田村及び御調町三郎丸地区を編入する。 |
| 昭和 50 年2月1日 (1975)年 | 協和村を編入する。 |
| 平成 16 年4月1日 (2004)年 | 甲奴郡上下町を編入する。 |

■ その他市の概要

▼市の花「あじさい」



ユキノシタ科の落葉灌木。

市民の皆さんになじみがあり、植栽が容易で育てやすい花として親しまれ、府中市の観光イメージの花として、市内外に知られています。また、あじさいは小さな花が集まり、大きな花に見える様は、まるでたくさんの町が集まって、一つの市として輝いているように見え、新しい府中市にふさわしい花として制定しました。
【平成 16(2004)年6月1日制定】

▼市の木「さくら」



バラ科の落葉喬木。

古来から、日本人は木といえばさくらをイメージし、美しく咲くさくらで春の訪れを知りました。現在、府中市内の諸地域においても、多数のさくらの名所があり、市民の皆さんに愛されています。また、入学式の頃に咲くさくらは、「出発の木」として新しい府中市にふさわしい木として制定しました。
【平成 16(2004)年6月1日制定】

▼市章



「フ」と「中」をデフォルメし、円満のうちに大きく発展上昇の意を表わしています。

【昭和 29(1954)年6月 28 日制定】

▼シンボルマーク



象徴的にデザインした芦田川。川の流れを暗示させ、そこに配置したオオムラサキの羽。

府中市(FUCHU CITY)の文字もデザインの中に組み込み、複合的な要素を明確化させています。

中央のオレンジの線は、光を暗示させながらも、自然と共生しながらの府中市の未来への発展を象徴しています。

【平成6(1994)年3月 31 日制定】

▼市民の花「さつき」「あやめ」「かたくり」

さつき



あやめ



かたくり



上下町合併前に府中市の花であった「さつき」と、上下町で親しまれてきた「あやめ」、「かたくり」は市民の花として決定しています。

▼記念の木 「カイツカイブキ」



カイツカイブキは、府中市の初代市の木として定められました。

▼市民憲章

府中市民憲章

わたしたちは、美しい自然と永い伝統につちかわれた府中市をより美しく豊かなまちにするために、全市民の願いをこめて、この市民憲章を定めます。

- 一、自然を愛し、美しいまちをつくりましょう。
- 一、元気で働き、豊かなまちをつくりましょう。
- 一、たがいに尊びあい、明るいまちをつくりましょう。
- 一、きまりを守り、住みよいまちをつくりましょう。
- 一、教養を高め、文化のまちをつくりましょう。

(昭和49(1974)年11月3日制定)